

『ある王族の成人秘儀 ～変態女王×童貞王子＝母子相姦淫語交尾～』

声の出演：とがりかも

シナリオ：うた（につち音声工房）

制作：につち音声工房

・本編シナリオ

来たな、王子。

それでは、女王エフェメラの名のもと、これよりそなたの成人の儀をとり行う。

なんだ？

そう固くなるな。

久方ぶりに母とふたりきりで、落ち着かぬか？

まったく、王族とは難儀なものだな。

実の母と子であっても、ゆっくりと話も出来ぬ。

しかしな。

今日は私が、巫女として、女王として、そして母として、そなたの成人を祝うのだ。

もう少し喜ばしい素振りを見せてくれてもいいではないか。

何？

薄布一枚羽織っただけの私を直視出来ぬと？

褌ぎを終えてこの神殿に参るのに最低限の着衣しか許されぬことは、女官から聴いておるだろう。

それにそなたも同じく裸同然ではないか。

さまつなことに気を取られるでない。

ああ、台座を挟んで私をまっすぐと見るのだ。

そうだ。見ろ、女王の肉体を。…美しかろう？

そなたらは、私が戦にかまけてばかりと思うておるかもしれぬが、私は自分が女であることを忘れてなどいない。

これでも色々と気を使っておるのだ。

そなたも、私の身体に感じるものがあるのではないか？

母の身体に劣情を催しておるのではないか？

ふ。そう慌てるな。

この成人の儀とは、わが王族のしきたりに則ってとり行われる。

それは、母が子の初めての女になるということだ。

すなわち、これからそなたと私は衡を共にする。

私の「女」の部分に欲情したとて、それは儀式の目的とする所。

この日だけはそなたも、自らの感情のままに振る舞うがよい。

私は、母は、そのすべてを受け止めるつもりだ。

ふふふ、いいぞお。

そなたも、もう立派なオスなのだな。

まとった薄絹も前を、しっかりと押し上げてきておる。

ああ、あはあ。

もつとこちらを見よ。

母が、その手で、指で、自らをまさぐっておるぞ。

ああ、あ、あ、あはあ。

どうだ？

剣でも男に引けをとらぬ、鍛えあげられた肉体。

ん、んあ。んはあ。

それでいて胸や尻は豊満で柔らかく、城内の男達がこそこそと視線をよこしてくるほどだ。

ほうら、そなたも私の乳房に視線が釘付けではないか。

ん、んは、ん、ん。

布一枚向こうの私の肌が恋しかろう。

そなたの「男」もすっかり強張っておる。

さて、それでは儀式の前の最後の清めに入るとしよう。

衣を脱ぎ、台座に上がるがいい。

そして、ふちに腰掛け、股を開くのだ。

恥ずかしがることはない。
これは儀式なのだから。

ふふふ、これほどとは。
乳母にまかせてばかりであつたから、そなたの成長をこれほど間近で感じるのは初めてかも知れぬな。
母は嬉しいぞ。
ああ、血管を浮き立たせて、どくどくと脈を打っておる。
母の身体で興奮したのか？
女王に欲情してこんなにしておるのか？
なるほど。これほどのケガレ、女王である私が清めなければ儀式どころではないな。

では、ゆくぞ。
んちゅ、ちゅば。ねろん、えろん。
ちゅ、ちゅば、ちゅぶ、んちゅう。
ええろ。じゅぶ、じゅ、じゅぼ。
じゅぼぼ。ちゅぶ、ちゅ、じゅば。
ん、じゅ、じゅぶ、ん、ん、じゅぼ。
んふ、じゅ、んちゅ、じゅる、じゅろ、じゅるる。
んちゅ、ん、ん、じゅ、じゅぶ、じゅろ、じゅるり。
じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ。
んぶは。ちゅ、ちゅる、じゅ、ん、じゅぼ。
ん、んん。んちゅう。

んはあ、はあ、はあ、はあ。
ふふ。呆けた顔をしておつて。
女王の口で清められるのがそんなに心地よかったか。
そなたの男根も、鈴口から涙を流して喜んでおるわ。

いよいよ本儀式に入る。
そのまま台座に仰向けになり、私に身を委ねるのだ。
私も一糸まとわぬ姿になろう。
その目に焼き付けるといい。

ん、ああ。清められた男根が一際大きく。
母の裸に女を求めて、そんなにしておるのだな。
それでよい。もっと感じてみせろ。母に心の内まで見せてみろ。
私も、そなたに全てをさげ出そう。

ほうら、見ろ。
そなたの上で、この国の女王が、そなたの母が、はしたなく股を開いておるぞ。
ん、しきたりとは言え、息子の目の前で女性器を押し広げ、テラテラと濡れそぼった花弁を見せつけておる。
あ、ああ。そなたのモノの咥えて、すっかりとろけて、私のココも男を求めておるのだ。
さあ、そなたはどうしたい？
母と、どうしたい？

な…！？
ふう。
そなたが隠れて市井にくだり、庶民の暮らしを学んでおることは知っておった。
だが、そのような品性下劣な、俗世の下品な知恵や言葉まで学んでおったとは。
そうか。
そなたは、私にもそのような言葉を口にして欲しいと言うのだな？
最も高貴な存在である女王が、下々のけがらわしい言葉を吐きながら、浅ましく乱れる姿が見たいと、そう願うのだな？
…いいだろう。
ふふ。言っただろう。そなたの好きにしろと。
この儀式の間、私はそなたの願いに答えるだけだ。
それに私も世の中を学ぶことは得意なのだ。

ほうら、見ろ。
女王様がみつともないガニ股で、オマンコのピラピラおつぴろげておるぞ。
もうすっかりグショグショのヌレヌレだ。ダラダラとはしたなくヨダレを垂れ流しておる。
ああ。そら、腰を落として、勃起オチンポ咥え込むぞ。

あ、ん、んあ。あはあ。
ん、あ、あ、あはあん。
ん、入った、ぞ。
女王の高貴なマンコの中に、王子の、息子のチンポ、ズッポリ生ハメ。
王族の親子セックスう。
あ、ん、んあ。ああ、ああん。
どうだ？女王のオマンコの具合は？
ドロドロのグッチョグチョの、いやらしい、オ・マ・ン・コお。
私の中で、そなたの肉棒もビクビク跳ねておるわ。
ん、んふ、おふ。あ、あ、あ、ああ。
んあ、あ、ああ、ああん。
それ、ガンガン腰振るぞお。
女王が、女王なのに、下品に浅ましく、息子の上で腰振りまくりい。
あ、あ、ん、あ、ああああ。
ん、ああ。
なんだ、情けない声を出して。
そなたも王族ならば、もっと自信を持つのだ。
そなたの男は、ん、なかなか立派だぞ。
ん、んふ。
こうやって。
ん、あ、あ、あ、ああん。
一国の女王をヨガらせているのだからな。
あ、ああ、ああん。
ん、あはあ。もう出てしまいそうなのか？
仕方ない王子だ。
ズンっと腰を突き上げて、一番奥で出すのだぞ。
あ、ん、あ、あ、あ、ああ。
んふ、あふ、おふう。
あ、あ、あ、あ、お、お、お、お。
いいぞ。いいぞ。
マン奥、チンポが突き上げて、感じるう。
ん、あはあ。息子チンポ膨らむう。
あ、あふう。
おお、来い、来い、来い、来い！
奥でピュルピュル中出ししろお！
んひ、んほお。ん、ん、あつはあ！
母のオマンコ、息子の童貞ザーメンでいっぱいしろお！
あ、あ、あ、あ、お、お、お、お。
お、あ、あおおおんっ！
きてるきてるう。王子の子種、初めての射精っ、女王のマンコにドッビュン来てるう！
んほ、おつほお！
いく、オマンコいくっ！
王族の精液で、アクメ決めてしまいう！
おお、いくいくいくいく！いっぐう！
ん、お、お、お、ん、んふ、んほお、オ° ッホオオオン！

おお、ん、んふう。
はあ、はあ、はあ、はあ。
なあに、休んでおるのだ。
まだ、これからだぞ。
しきたりでは、抜かずに三発射精するまで、儀式は終わらぬのだからな。
ん、ああ、ああん。
そら、そら。早く硬くするのだ。オチンポ勃起させるのだ。
ん？
ふふ。本当にしようのない息子だな。
母に、そんなおねだりをさせたいなどと。

いいか？これは儀式なのだからな。
今だけの特別、なのだからな。

「私、女王エフェメラは、息子である王子にまたがって腰を振りまくる、
破廉恥極まりないド淫乱クイーンですう。

息子のお肉棒を美味そうにしゃぶり尽くして、
お精子ジュルジュル飲み干す、変態ママなお。
戦争ばかりで枯れてちゃった、どエロおい女王様のオマンコ、
王子の若い勃起オチンポで潤してえん。
あつはああん！チンポチンポチンポお！
チンポとマンコでドスケベセックスう！
バッキバキのぶつといので、ズコンバツコン腰打ちつけて、
ママのメス穴にドビュドビュビュルビュル、チンポミルクちょうだい」

ん、お、おっほお！
女王の下品なおねだりで、王子のチンポがピンッピンに勃起い。
母親の淫語で、息子のオチンポ、バッキバキい！
ん、あ、あ、あ、ああ。
まさか、このまま射精するのか？
お下劣な台詞だけで、ザー汁ビュービュー発射するのか？
あ、ああああ。
お、お、お、おお。
私も、いくう！
興奮する！変態淫語セックス、だいこうふうん！
あはあ、いやらしい。私もドスケベだ。ドスケベクイーンだ！
お、おほお。うっほお！
ん、ん、んほ、おほ。
またくるう。チンポ汁が私をメスにするう！
お、お、お、お！いくっ！いつぐううう！
おほ、んほ、おっほお！
インっ、ぐうううううう！

あああ。はああ。はあ、はあ、はあ。
たっぷり出したな。
私のマン汁とそなたの濃ゆういチンポ汁で、マンコがこんなにヌッチョヌッチョしておる。
ん、はあ。
そうだ、もう一発だ。
もう一発中出し決めれば、そなたも立派な大人の仲間入りだ。
今以上に王族としての責務がのしかかってくるであろう。
甘えの許されない日々に戻る前に、私に言っておきたいことはあるか？

ああ。分かった。
女王として生きる以上、仕方のないことだが、やはり私は母親としては不十分であったな。
今、この時だけは、存分に甘えて、おくれ。

あはあ、可愛い坊や。
そう、そうよ。
優しくピストンしてえ。
気持ち、いいわあ。
ママのオマンコ、坊やのオチンポでズッポズッポされて、気持ちいいわあ。
あ、あつはああん。
おっぱいもチュウチュウしちゃって、甘えんぼなんだから。
もう、そんなに乳首引っ張らないの。
ん、おふう。
寂しかったのね。
ママも、ホントは、あなたとこうしていたかった。
でもね、ダメなの。大事なお仕事なの。
あなただけ愛してるのじゃ、ダメなのよ。
ほんとに、ごめんね。
だから、今だけ、今だけはあなただけのママよ。
ん、ん、んふう。
あ、あ、あ、あ、アハアン。
上手よ、上手。セックス上手う。
あ、ああ、ああん。
あ、あ、あ、あ、お、お、お、お。
そこそこそこそこ！

腰使いに愛を感じるう！
ホントはずっとこうしたい。ずっと、オマンコしていたいっ！
母親マンコと息子チンポで、ぐっちょっぐっちょしていたいのぉ！
あ、あ、あ、あ、お、お、おっほお！おっほっほお！
坊やのチンポが、ママの気持ちいいトコロえぐってるうっ！
親子でチンポマンコセックス、すごい気持ちいいっ！
好きよぉ！あなたも、あなたのチンポもお！
だからもっと突いて。
亀頭で子宮の入口ノックしてえ。
ああ、ああ、おお、おお、オオオオ！
んほ、オッホオ。おふ、んほ、アッハアン！
ア、ア° アアア。お°、オ°、オ°、ウッホオオオオ！

あ、ア、ア° アアア！
やはり、私には、優しいママは無理だぁ！
んっほ、お° つほおお！
すまない！すまないっひいいい！
こうやって、ん、生きてきたんだ。
今更、変えられるわけもないっ！
だから！
ママになれない代わりに、せめて、そなたの欲望を受け止める！
今だけじゃなくたっていい！
これから女王は、そなたの便器だっ！
ん、いつでも犯して、濃厚ザー汁注ぎ込んでもいい、王子チンポ専用精液便所だ！
ド変態女王の穴という穴は、いつでもそなたの精子を受け止める準備ができておる！
あ、あ、あ、あ、愛しておるのだぁ！

んほ、おほ、ん、んっひいいい！
尻の穴にチンポきたぁ！
ああ、いかん！
オマンコに三発でないと儀式にならんのだ！
ん、んほ、んは、あ、あっはっはあああん！
ケツピストン凄いいい！
そ、それは、もちろんケツマンコもそなたのものだ！そなたの便器だっ！
んっは、あっはあああ！もうどうでもよいっ！
気持ちよければなんでもよい！
んは、んほ、おっほおお！
気持ちよいぞ！ケツマンコ便器、気持ちよいぞおお！
王子も、もっと気持ちよくなってくれえ！
もっと締めるぞ！ケツ穴、もっと締めつけるう！
あっ、あっ、あ°っ、あ°、ア° ハアアアッ！
ケツ凄いケツ凄いケツ凄いいいっ！
ウッホオオオ！そこおっ！
ン、ン°、イぐう。ケツマンコでイっぐうううん！
んっは、おっほ、ぐっほお！
お、お、おあああ！ケツ穴めくれるう！
早くくれっ！ケツマンコに息子の子種、くれえっ！
オッフウ、ンヒィ、ンッホオウ！
女王を、母を、そなたのお精子でいっぱいしてくれええっ！
オホオ！オオホオオオンッ！
ケツアクメえ！ケツアグメえええ！
んひい、うおおおん、オヒィン、ンッホオウ！
オオウッ！イグっ！
あ°ア°ア°、あ°お°お°オ°オ°オ°オオオン！
イグイグイグイグ！
イグイグイグイグ！
インッッ、グウウウウオオオンッ！

これで儀式は終了だ。
…誕生日、おめでとう。